学校だより第３号　　令和８年６月２６日

おおわし

新潟市立大鷲小学校 住所　新潟市南区東笠巻 1202
電話　025-362-5431 ファックス 025-362-5554
E-mail
e607owashi01@city-niigata.ed.jp
ホームページ
http://www.owashi.niigata-city.ed.jp/

「困った」「分からない」を伝えること

校長　　菅原　知昭

人と話をしている中で分からない言葉が出てきた時、「そうなんだぁ。」と知っているかのように受け答えしながら、実はよく分かっていない。「○○ってどういう意味？よく分からないから教えてくれる？」と聞けばいいだけなのですが、声に出せなかった。私はこのような経験が結構あります。皆さんはどうですか？

分からないことがあった時、困ったことに遭遇した時、皆さんは声に出して助けを求めることができますか？皆さんのお子さんはできますか？

困った時に助けを求めることを『援助希求』と言います。「ちょっと手伝ってくれない？」「分からないから教えて？」などの言葉で相手に助けを求めることです。他者と共に新しいことを学んでいく時には、この援助希求ができることで格段に学びやすくなります。自分の力では困難なことの解決につながっていくからです。様々な学習や新しい活動を行う時にはぜひ身に付けておきたい行動の１つです。この行動ができるようになることで、学校での過ごしやすさや学びやすさは格段に上がりそうです。

しかし、この行動が思ったよりも難しいのです。私自身の経験では「こんなことを言ったらバカにされたり、ひやかされたりするんじゃないか」「このくらいできない（分からない）と恥ずかしい」と言った思いが頭を過ぎるのです。

このような思いを抱く機会を少しでも減らし、助けを求めることができるようになる方法は何でしょうか？その手掛かりは２つあると思います。

１つは「困っている気持ち、失敗、分からなさなどを受け止めてもらえる安心感」。そしてもう１つは「助けを求める勇気」だと思います。私たち大人が「困ったらいつでも聞かせて」「「分からない」と言っていいんだよ」「相談すると解決につながりやすいよ」など、いつでも助けを求めてよい雰囲気をつくっていくことが、大切なのだと思います。その雰囲気が、困っている人が声を出す勇気（行動）につながる。実際に行動し、解決できた経験が、更に援助希求を出しやすくするのだと思います。

分からないことがあるから学びに来る、それが学校です。助けを求めることが当たり前にできるようになると、学校は安心できて楽しいものになると思います。「分からない」「困った」を声に出せる環境を学校と家庭の両方で築き、子どもたちの安心と、困り感を声に出す勇気を増やしていきたいものです。

１年生　６人・・・しょうらいのゆめ

渡邊（わたなべ）　充暉（みつき）

釣り人になりたいです。釣り人になってマグロと太刀魚を釣りたいです。お刺身にしてご飯にのっけ、海鮮丼にして家族と一緒に食べたいです。

塚野（つかの）　桜（さくら）

小学校の先生になりたいです。困っている子がいたら、「大丈夫ですか」と優しく声をかけたり、みんなで遊んだりしたいです。

田辺（たなべ）　碧大（あおと）

サッカーの選手になりたいです。ゴールキーパーになって、相手が蹴ったボールを手でとって、相手のゴールに向かって思いっきり投げたいです。

橋本（はしもと）　彩花（あやか）

警察官になりたいです。警察官になって、泥棒を逮捕し、町の人が安心して暮らせるようにしたいです。

外川（とがわ）　晄舟（おうしゅう）

サッカー選手になりたいです。いっぱいシュートを決めて、点を取りたいです。教える人にもなりたいです。

小菅（こすげ）　琉太（るた）

釣り人になりたいです。釣り人になって、海であじときすを釣りたいです。天ぷらやから揚げにして食べたいです。